

西濃農林事務所の普及活動状況 令和5年3月28日現在

今月の重点活動

■冬春トマト 海津冬春トマトビッグデータ活用推進協議会第4回現地研修会の開催

令和4年度の取り組みとして、海津冬春トマトビッグデータ活用推進協議会主催による現地研修会の第4回（最終）が3月7日に開催された。

独立ポット耕栽培者とヤシガラ培地栽培者の小グループに分かれて、農業栽培コンサルタントの講師から、高温期に向けた今後の栽培管理について、前回の研修会以降の栽培管理や生育の変化を踏まえて、具体的なアドバイスを受けることができた。生産者からは、いくつもの質問があり有意義な研修となった。

なお、令和2年度から今年度までの3カ年の成果として、ビッグデータ活用マニュアルを作成しており、農林事務所では、技術向上による単収向上に向け、令和5年度も引き続き支援を行っていく。



【研修会の様子】

安全で身近な「西濃の食」づくり

■小麦・大豆 麦・豆類共励会で管内法人が表彰される

令和4年度「岐阜県麦作共励会」並びに「岐阜県豆類経営改善共励会」表彰式が、3月15日、岐阜県JA会館で開催された。西濃地域からは「麦作共励会・集団の部」の最優秀賞に（農）のでら、優良賞に（農）三郷が、「豆類経営改善共励会・集団の部」優秀賞に（農）大空が選出され、表彰状が授与された。表彰式では、両共励会の審査委員長である岐阜県農業技術センター所長から講評があり、農地集積や作業分散など効率的な経営や、市民の憩いの場となる景観作物の作付けによる地域貢献など、講評が述べられた。

さらに、令和4年度全国麦作共励会中央審査において、（農）のでらが全国農業協同組合連合会会長賞を受賞し、表彰式が3月2日に東京で行われた。

今後も農林事務所では、全国レベルで評価されるような、高品質と高収量を併せ持つ小麦・大豆生産を支援していく。



【表彰式の様子】

■ぎふ清流GAP 海津市の法人が米で取得

3月28日に、ぎふ清流GAP証書交付式が岐阜県庁舎20階「清流ロビー」において開催された。雨宮農政部長より、今年度県下11個人・組織・経営体がぎふ清流GAPを取得され、西濃管内では、有限会社平田パイロットに証書が交付された。

農林事務所では、昨年度からぎふ清流GAP取得に向けて、関係機関と連携し、農場評価シートによる取組の確認や是正箇所の洗い出しなどを法人担当者とともにいった。また、本審査への立会と結果に基づく是正指導等を行い、GAP到達レベルで最高となる「アドバンス」を取得した。

今後も農業経営体及び生産組織、産地による食品安全・環境保全・労働安全の取組みとして、GAPの実践を支援していく。



【交付式の様子】

西濃の農畜水産物のブランド展開

■なす 栽培研究会の開催

3月3日に、JAにしみの海津中支店で海津茄子部会の栽培研究会が行われた。

昨年は青枯病が多発し、収量減となったことから、農林事務所では令和5年産の栽培に向けて青枯病対策を検討しており、本研究会においても防除対策の情報提供を行い、技術の普及に向けての意見交換を行った。生産者からは、重要な感染予防対策の一つであるハサミの消毒について、取り組みに前向きな意見が得られた。

施設栽培では2月下旬から定植が開始されており、4月上旬に初出荷が見込まれる。農林事務所では、青枯病など土壌病害対策を中心に栽培を支援していく。



【研究会の様子】

■いちご ぎふ清流GAP農場評価

西濃管内では、西美濃いちご振興協議会員（会員：52名）が主となり、いちご生産が盛んに取り組まれている。各地区に支部があり、大垣市いちご生産組合ではGAPの取り組みを進める中、組合員1名がぎふ清流GAPの評価を受ける準備を進めてきた。

今回は、組織ではなく個人としての申請であったが、今後の組合での取り組みを視野に入れ、JAとともに審査に向けた支援を行ってきた。2月28日には内部点検を行い、改善できる箇所は事前に改善して審査に臨んだ。3月7日には、ぎふ清流GAP農場評価が行われ、概ね良いとの評価であった。

農林事務所は、今後は正措置の支援を行う予定だが、さらに団体申請を支援し、産地強化につなげていきたい。



【内部点検の様子】

■きゅうり 海津胡瓜部会 半促成・越冬栽培研究会の開催

JAにしみの海津胡瓜部会は、3月7日に半促成・越冬栽培研究会を、JAにしみの海津営農センター（深浜）で開催した。研究会の前には、種苗業者、JA、農林事務所等関係者ではほ場巡回を行い、各作型の生育状況について確認した。

研究会では、種苗業者から生育や品種特性を踏まえて、春に向けた栽培管理について説明が行われた。西濃農林事務所からは、春の一斉防除やスマート農業機器の貸出事業やぎふ清流GAP評価制度の取り組みなどについて紹介し、啓発した。

令和5年産は、低温や乾燥により生育前半の枝の動きが悪く、出荷量が伸び悩んでいたが、3月以降は日射量の増加に伴い回復基調にあり、今後は出荷量の増加が期待される。



【ほ場巡回の様子】